

医療安全

転倒転落誤薬防止部会ニュース



久里浜医療センター

発行No.1 2013年6月12日

医療安全推進担当者

担当転落誤薬防止部会

水上、川端、上嶋、武田、高山

看護師の与薬エラーを防ごう!!

昨年度のヒヤリハット総件数は614件で一番多かった平成19年度の854件から比べるとやや減少横ばいの数になっています。中でも誤薬に関する数は全体の約3割(29%)を占めます。細かくみると、**誤調剤、無投薬、過小投与過剰投与、日付間違い**などでした。

今年度は、**新人看護師が5名就職**されています。**ひとり立ちする5月から9月**は周囲のスタッフの協力が特に大切です。また、仕事を丁寧に実施する**新人看護師だからこそ気づいた誤調剤の発見**もありました。提出された報告を情報共有し事故防止に努めましょう!!



病棟看護師の皆さんへ

1. 業務開始前には、新人看護師と業務計画を立てましょう。
2. 指導内容は具体的に示しましょう
3. 「どこまでやるのか」「何が出来ないか」をたずねて、言葉で確認しましょう
4. 指示、依頼の内容は省略しないで、はっきりと最後まで、正しく理解できるように伝えましょう。
5. 業務の進行状況に応じて業務の範囲を調整し、責任の所在(誰が、何を、どこまでするか)を明確にしましょう。

新人看護師の皆さんへ

1. 薬剤の適応理由について考えましょう。
2. どんな薬剤でも指さし、声出し確認
3. いくつかの仕事を同時にせず、一つずつ確実にいきましょう。
4. 自分の判断に自信のないときには、遠慮せず先輩看護師に相談しましょう。

管理者の皆さんへ

1. 一人の看護師が、与薬準備から実施まで連続して担当できるような業務環境を整えることが必要です。
2. 薬局から配信される医薬情報を確実に認識できるように整理してください。
3. 同姓同名や似た名前など誤りやすい患者さんの識別(方法、手順)を決め確実に周知してください。



※吹き出しの一部は、看護協会 医療 看護安全管理情報 NO.7を引用・参考しています。

2002年5月15日に配信されていますのでご覧ください。